

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特性を活かして地域のニーズやグローバル化する社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や次代を支えリードする人材を育成する。

1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し見通すことができる力を育む。
2. 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、自らの社会での役割を見出し、活躍できる「自主、自律、創造」の力を育む。
3. 本校で身につけた知識や経験に自信と誇りを持ち、様々な困難に立ち向かっていくとともに、他者を理解し、協働できる寛容な力を育む。
4. 学校、地域における教育資源と社会資源を相互活用しながら交流を推進し、一層地域に信頼され愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取り組みを進める。

- ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践とICT機器を活用した授業を融合し、経験の浅い教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。
- イ “量”より“質”による希望進路の実現を図り、生徒の「進路希望実現率100%」をめざし、自習室の充実、学習環境の整備に努める。
- ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。
- エ 会議や校内の連絡・情報共有体制を見直し、教員が校内研修や教材研究をする時間を一層とれるよう工夫する。

※学校教育自己診断(生徒)における「わかりやすい授業」の肯定率を、2020年度には65%以上をめざす。(H29 58%)

※H30には進路未定率2%以下を達成し、2020年度以降も限りなく0%をめざす。(H29 2%)

2 キャリア教育、人権教育の推進

(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かして生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

- ア 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、LHR等を活用して、キャリア教育、人権教育を行う。
- イ 生徒の学習歴の多様化を踏まえ、小中学校でのキャリア教育、人権教育の状況を把握し、小中学校と連携した取組みを一層推進する。
- ウ 挨拶、礼儀、身だしなみ等、公共の場での自ら規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではぐくむ。
- エ 時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立させる。

※2019年度までに遅刻件数30%減をめざす (H28年 遅刻件数約7000件、H29年 遅刻件数約6500件)

3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成

(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。

- ア 学校行事や部活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。
- イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解しようと努め、意思疎通を図ることによって互いを尊重し、協働できる姿勢をはぐくむ。
- ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。
- エ 生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。

(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。

- ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。
- イ 学校ホームページや校長ブログを活用し、学校情報発信を積極的に行う。

※部活動加入率を、2020年度には55%以上をめざす。(H29 37%)

※学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、2020年度には70%以上をめざす。(H29 61%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見 () 内は学校の回答
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断(生徒)の肯定率で「授業でプロジェクターなどを使って説明」は89%、「わかりやすく楽しい」は60%、「考えをまとめたり、発表することがよくある」67%「グループで活動することがよくある」65%。自己診断(教職員)の肯定率では「教材の精選・工夫を行っている」87%、「ICTを活用する授業が多い」87%。「主体的・対話的で深い学び」をめざし、校内研修や公開研究授業を通して授業改善を学校全体で取り組んだ成果である。 <p>【キャリア教育・人権教育等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断(生徒)の「将来の進路や生き方について考える機会」の肯定率が75%。また、自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ」の肯定率は76%。自己診断(教職員)「教育活動について日常的に話し合っている」87%。「3年間を見据えた人権教育」に取り組む、情報共有と事案に対する迅速な対応に努めた成果と言える。 <p>【自主・自立・創造力、協働力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断(生徒)の「悩みや相談に親身になってくれる先生」の肯定率は、62%、特に3年次生は高い肯定率(66%)を示している。一方で、「先生は問題を見逃さずに対応する」は55%、「担任以外で気軽に相談できる先生がいる」は46%と低く、生徒相談体制の工夫が必要と考える。 体育祭、文化祭、修学旅行のアンケート結果はすべて「楽しかった」が90%代後半となった。また、海外から来校した生徒との交流を希望する生徒は30名から50名程度集まり、抽選を行うほどであった。 	<p>【第1回(平成30年6月26日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪府のパソコンにあるON-LINE掲示板の使い方と教員のスマートフォン規定は大阪府共通か(→ON-LINE掲示板は学校によって使用形態が違う。教員のスマートフォン規定は本校独自で作成した。) 化粧をしている高校生がいるが、貝塚高校での指導は?(→身だしなみとしてこれから検討していく。) 「産業社会と人間」の指導における担任の違いはないのか?(→事前に打ち合わせをして内容を確認している。) <p>【第2回(平成30年10月22日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻が多いことへの対策は一各年次で新たな指導を導入。 教育相談室の利用度について(→あまり利用されず。SCの利用は一定数いる。) 働き方改革の取り組み主体はどこか(→管理職が行っている。) <p>【第3回(平成31年1月23日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立大学合格者について、本人が志望校を選んだ理由は?(→自分の勉強したい領域があったから関東であったが志望した) 化粧について、教員の指導方針をまとめにくいのはしんどい状況だと言える。中学校では今、スマホの扱いも検討中。 大麻や薬物について大阪では高校生にも広まっている。学校の対策・指導は?(→1年次の夏休み前に外部より講話を聴いている。また、今年度は全校生徒に少年サポートセンターから話をいただいた。)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取り組みを進める。</p> <p>ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践と ICT 機器を活用した授業を融合し、経験の浅い教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。</p> <p>イ “量”より“質”による希望進路の実現を図り、生徒の「進路希望実現率100%」をめざし、自習室の充実、学習環境の整備に努める。</p> <p>ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。</p> <p>エ 会議や校内の連絡・情報共有体制を見直し、教員が校内研修や教材研究をする時間を一層とれるよう工夫する。</p>	<p>ア・授業力向上チームを中心に、授業アンケート、学校教育自己診断の結果を踏まえ、教材の精選・授業展開の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内授業公開週間を年に2回し、教科ごとの授業研究を奨励する。 近隣幼稚園、小・中学校、施設との交流を一層活発に行う。 ICT機器を授業に一層活用できるように授業を工夫する。 <p>イ・自習室の開室時間を生徒の希望に応じて柔軟に対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒同士で高めあう集団づくりに取り組み、妥協しない進路先を実現する。 進路HR、進学説明会等を通じて、多様化する入試制度を生徒にも保護者にも情報提供する。 自分の能力に応じた級の漢字検定、英語検定を受けるよう、奨励する。 <p>ウ・自立支援コース生徒の進路実現に向け、本人・保護者の意向を踏まえ、関係諸機関とも連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。</p> <p>エ・職員会議を減らし、各種研修を年度当初から行事計画に入れる。単なる連絡だけの会議を減らし、その代わりに、ICT機器による連絡手段を活用し、日常の連絡、情報共有、周知を図る。また、行事前における生徒の最終下校時刻を設定し、生徒も教員も負担加重のないように工夫する。</p>	<p>ア・自己診断（生徒）の「わかりやすい授業」58%を60%以上に。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断（教職員）の「学習指導の方法等について他教科の担当者と話し合う機会がある」60%を65%に。 地元の小中学校と連携し、授業見学や合同研修会を3回以上実施。 座学の出前授業を複数回実施。 自己診断（教員）「ICTを活用した授業が多い」を90%台に 自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」70%を75%以上に。 <p>イ・自習室利用生徒数を述べ人数110人から200人に、利用満足度80%に。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応してくれる」77%を80%以上に。 自己診断（保護者）「教育情報について提供の努力をしている」83%を85%以上に 就職一次合格率、二次以降合格率ともに85%以上を堅持。(H28一次85.7%、決定率95.7%) 進路未定率を2%未満に。(H29 2%) 漢字検定受験者数180名以上受験。合格率50%以上(H29 134名受験) 英語検定受験者数100名以上受験。合格率55%以上(H29 96名受験) <p>ウ・自立支援コース生の希望進路の実現率100%を堅持。</p> <p>エ・自己診断（教職員）「各種会議が有効に機能している」46%を55%に。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断（教職員）「校内研修は教育実践に役立つ」66%を70%以上に。 	<p>ア・自己診断（生徒）の「わかりやすい授業」60%（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断（教職員）の「学習指導について他教科の担当者と話し合う機会がある」60%。（△） 地元の小中学校と連携し、授業見学や合同研修会（人権研修、保健研修等）を3回実施。（○） 座学の出前授業を3回実施。（◎） ICTを活用を含めた授業力向上研修を全教員対象に2回実施（◎） 自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」71%。（△） 自己診断（教員）「ICTを活用した授業が多い」87%（△） <p>イ・自習室利用生徒数実人数196人利用満足度（「満足」と「ほぼ満足」合わせて78%、「ふつう」を合わせると98.9%（○）以下、自由記述より「落ち着いた環境でいい」「仕切りがあって勉強しやすい」「5時以降も勉強できる場所がほしい」「時間。期間を延ばしてほしい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立大学に推薦で1名、大阪体育大学公募制推薦で1名合格。（◎） 自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応してくれる」80%（○） 自己診断（保護者）「教育情報について提供の努力をしている」84%（△） 就職一次合格率74%（△） 進路未定率2%未満。（○） 漢字検定受験者数132名受験。合格率43%（△） 英語検定受験者数111名受験。合格率58% 2級に6名合格（◎） <p>ウ・自立支援コース生の希望進路の実現率100%。その他手帳保持者の進路も決定（○）</p> <p>エ・自己診断（教職員）「各種会議が有効に機能している」57%（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断（教職員）「校内研修は教育実践に役立つ」67%（△）

府立貝塚高等学校

<p>2 キャリア教育、 人権教育の 推進</p>	<p>(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かして生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。 ア 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、LHR 等を活用して、キャリア教育、人権教育を行う。 イ 生徒の学習歴の多様化を踏まえ、小中学校でのキャリア教育、人権教育の状況を把握し、小中学校と連携した取組みを一層推進する。 ウ 挨拶、礼儀、身だしなみ等、公共の場での自ら規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではぐくむ。 エ 時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>ア・ルーブリック評価を用い、生徒に課題達成目標を明確に示し、プレゼン講座を充実させる。 ・進学希望生徒の増加を踏まえ、自習室等、自学自習できる学習環境の整備に努める。 ・初任者にはHRや「産社」「総学」の時間に担任と一緒に入り、指導内容を把握する。 イ・小中学校と連携し、生徒・教職員の交流を積極的にすすめる。 ・課題を抱えた生徒の情報共有を迅速にする。 ・教育相談室開室の周知と利用の促進をする。 ウ・年次団会議等で生徒の情報交換を密にし、常に情報共有に努める。 ・「身だしなみキャンペーン」の時期だけでなく、常に恥ずかしくない身だしなみを心がけるよう指導する。指導内容を学校全体で統一し、一貫した粘り強い指導をめざす。 ・生徒が安心して学校生活を送れるよう、教職員の規範意識も高め、サービスに関する規律の理解を周知徹底する。 エ・生徒指導部中心に遅刻件数を大幅に減らす。 ・件数の多い生徒には生活習慣全般の見直しを保護者の協力のもとに指導する。 ・遅刻を減らす工夫を生活指導部中心に、他の分掌とともに協力して取り組む。</p>	<p>ア・自己診断（生徒）「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」65%を70%以上に。 ・自己診断（生徒）「進路についての情報をよく知らせてくれる」74%を80%に イ・自己診断（生徒）「地域の人々や近隣の学校との交流がある」47%を50%以上に ・自己診断（生徒）「保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」45%を50%以上に ・職員人権研修年5回を堅持。内容も精選。 ・教育相談研修を1回実施。 ウ・自己診断（生徒）「先生の指導に納得できる」49%を50%に。 エ・遅刻件数を2019年度までに3割減を目標にする。 (H28 約7000件 H29 約6500件)</p>	<p>ア・自己診断（生徒）「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」67%（△） ・自己診断（生徒）「進路についての情報をよく知らせてくれる」76%（△） イ・自己診断（生徒）「地域の人々や近隣の学校との交流がある」50%（○） ・自己診断（生徒）「保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」46%（△） ・職員人権研修年5回実施。（情報共有、自立支援コース生の就労支援、LGBT研修など）教育相談研修を7月に実施。（○） ・小中学校とのキャリア教育・人権教育に関する交流を4回実施。（進路保障懇談、保健講演、LGBT研修等）（○） ウ・週1回の生徒情報交換、職員人権研修年5回、教育相談研修を1回実施。（○） ・自己診断（生徒）「先生の指導に納得できる」52%。（○） エ・遅刻件数 →H31 2月末集計 5477件 H29年度末より1100件減。 H28年度末より2割以上減。（○）</p>
---------------------------------------	---	--	---	--

府立貝塚高等学校

<p>3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成</p>	<p>(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。 ア 学校行事や部活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。 イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解しようと努め、意思疎通を図ることによって互いを尊重し、協働できる姿勢をはぐくむ。 ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。 エ 生起した事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。 (2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。 ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。 イ 学校ホームページや校長ブログを活用し、学校情報発信を積極的に行う。</p>	<p>(1)ア・行事を通して多くの感動を体験させ、自己肯定感を高める取組みを推進する。 ・生徒が自主的に活動できる場として利用できるよう、特別教室や中庭の環境整備を図る。 イ・体育祭、文化祭等の行事に工夫を凝らし、他者を思いやり、より良い取組みをめざすクラス仲間づくりを進める。 ウ・授業において、探究活動や発表活動を積極的に行い、自主的活動を促進し、互いに発表しあうことでコミュニケーション能力を高める。 エ 海外の生徒の授業参加や生徒との交流をする行事を行う。 オ・生起した事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り、教員同士もお互いを支えあうような環境をつくる。 (2)ア 地域の人を招いた農産物販売や学習成果発表会、クラブ活動紹介など、学校の取組みを外部の人に発表する機会を推進する。 ・生徒の主体的な意見を取り入れて、部活動の活性化、新入生の加入率を上げる取組みを行う。 イ・Webページで、“生徒の活動の見える化”に取り組む。 ・生徒がかかわることにより、広報活動の活性化を図る</p>	<p>(1)ア・行事満足度90%以上を堅持。(H28 90% H29 90%) イ・自己診断(生徒)「行事が工夫されている」74%を75%以上に。 ウ・総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身に付いた」74%を75%に。 エ・海外の生徒の学校訪問を企画し、生徒との交流行事を複数回行う。 オ・学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、2019年には65%以上をめざす。(H28 57% H29 61%) (2)ア・部活動の加入率1年次37%をH30は40%に、2019年には50%以上に。 ・中高の部活動交流の実施クラブ数を堅持。(H28、H29 7部) ・自己診断(生徒)「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」50%を60%に。 イ・“写真でみる貝塚高校”は月2回以上、校長ブログは週2回以上更新。校長以外の作成者を養成。 ・生徒が作成した広報活動の成果物。学校説明会での生徒の参加。</p>	<p>(1)ア・文化祭、体育祭、修学旅行の満足度すべて90%後半。(◎) イ・自己診断(生徒)「行事が工夫されている」77%。(○) ウ・総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身に付いた」肯定の回答は85%と大幅増。(◎) エ・海外の生徒の学校訪問交流行事4回実施。国際理解教育実践の場となる。(◎) オ・学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」62%。(△) (2)ア・部活動の加入率1年次40%弱。昨年と変わらず。中途退部者はほとんどいないが入部者が増えない。(△) ・中高の部活動交流の実施クラブ数を堅持。(○) ・自己診断(生徒)「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」52%。(△) イ・“写真でみる貝塚高校”は平均月2回、校長ブログは平均週2~3回更新。他の教員も作成に関わる。(○) ・学校説明会をオープンスクールも含めて4回実施。教員の負担軽減を考え、行事をまとめて休日勤務日を減らす。(○) ・生徒が作成したポスターや、保健研究発表会での生徒の発表、オープンスクールでの生徒のスタッフ参加など、生徒が活躍。(○)</p>
----------------------------------	---	--	---	---